

事務連絡
平成30年6月1日

各〔都道府県
保健所設置市
特別区〕衛生主管部（局） 御中

厚生労働省健康局結核感染症課

ダニ媒介感染症に係る注意喚起について

ダニ媒介脳炎については、平成29年8月8日付け事務連絡にて、北海道において国内4例目となる患者の発生が確認されたことについて、情報提供を行ったところですが、今般、北海道旭川市において国内5例目発生が確認され、別紙のとおり旭川市がプレスリリースを行いましたので、情報提供します。

ダニ媒介脳炎や重症熱性血小板減少症候群（SF-TS）を含むダニ媒介感染症に関しては、ダニに咬まれない予防措置を講じるとともに、もし発症した場合には、早期に医療機関を受診し、適切な治療を受けることが重要であることを、従前より周知してきたところです。

各自治体におかれましては、ダニ媒介感染症の予防啓発資材を活用し、改めて注意喚起をお願いします。

別紙：平成30年6月1日付け旭川市プレスリリース

参考：ダニ媒介脳炎について

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000133077.html>

ダニ媒介感染症

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>

各 報 道 機 関 様

ダニ媒介脳炎患者（国内5例目）の発生について

平成30年6月1日（金）

旭川市保健所健康推進課
TEL 0166-26-1111（内線 2954）
FAX 0166-26-7733

平成30年5月31日（木）、市内の医療機関において、ダニ媒介脳炎患者の発生を確認しました。本件は、国内5例目（いずれも道内）の発生となります。その概要については、次のとおりです。報道方よろしくお願いたします。

1 本事例の概要

(1) 患者の年齢等

40歳代，女性

(2) 患者のダニ刺咬歴

あり

(3) 経過

5月29日（火）ダニの刺咬歴・臨床症状などから医師がダニ媒介脳炎を疑い、医療機関が旭川市保健所に連絡。

5月30日（水）北海道立衛生研究所において検査実施。

5月31日（木）検査の結果、陽性と判明。医療機関が旭川市保健所に発生届を提出。

(4) 患者の症状等

発熱，意識障害，髄膜炎，脳炎

2 ダニ媒介脳炎の発生状況

区分	1例目	2例目	3例目	4例目	5例目
届出受理年月	平成5年	平成28年8月	平成29年7月	平成29年8月	平成30年5月
届出受理保健所	渡島保健所	札幌市保健所	市立函館保健所	札幌市保健所	旭川市保健所
性別・年齢	女性・30歳代	男性・40歳代	男性・70歳代	男性・70歳代	女性・40歳代
感染したと推定される地域	道南圏域	不明 (最近の海外・道外旅行歴なし)	道南圏域	道央圏域	道北圏域
その他	—	死亡	死亡	—	—

* 報道にあたっては、個人のプライバシー等の保護のため特段の御配慮をお願いします。*

3 ダニ媒介感染症の概要について

別紙参照

ダニ媒介感染症の概要について

1 マダニとは

マダニは、森林や草地など屋外に生息する比較的大型のダニ（食品等に発生する「コナダニ」やじゅうたんや寝具に発生する「ヒョウヒダニ」など住宅内に生息するダニとは種類が異なる）で、ダニ媒介感染症（ライム病・回帰熱・日本紅斑熱・ダニ媒介脳炎・重症熱性血小板減少症候群(SFTS)など）の原因となる病原体を保有していることがあり、ヒトはマダニに咬まれることでこれらの病気に感染することがあります。

2 道内のマダニが媒介する感染症

(1) 道内で、過去に患者が確認されている主なダニ媒介感染症は、次のとおりです。

病名	潜伏期間	主な症状
ライム病	12～15日程度	発熱（微熱であることが多い）、倦怠感、慢性游走性紅斑、まれに心筋炎・髄膜炎
回帰熱	7～10日程度	発熱（39度以上）、筋肉痛、関節痛、倦怠感等
ダニ媒介脳炎	7～14日程度	発熱、筋肉痛、麻痺、意識障害、けいれん、髄膜炎、脳炎等

- (2) これらは、インフルエンザのように人から人に感染して広がるものではなく、水や空気などを介して感染することはありません。
- (3) ダニ媒介脳炎は、ウイルスが混入した生乳を飲んで感染した例がヨーロッパで知られていますが、ウイルスは72度10秒で死滅するため、殺菌処理された市販の牛乳から感染することはありません。

3 主なダニ媒介感染症発生状況（届出数） H30は、第20週（5月20日）まで

(1) ライム病

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30
北海道	6	9	3	5	9	0
旭川市（再掲）	2	0	0	0	0	0
他都府県	14	8	6	3	10	0

(2) 回帰熱

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30
北海道	1	1	4	5	5	0
旭川市（再掲）	0	0	2	1	0	0
他都府県	0	0	0	2	3	0

4 予防方法

マダニに咬まれないようにすることが、最も重要です。

草の茂ったマダニの生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴（サンダル等肌を露出するようなものを避ける。）、帽子、手袋、首にタオルを巻くなど、肌の露出を少なくすることが大切です。虫よけ（忌避剤）の併用も、効果が期待されます。

5 マダニに咬まれた際の対応について

野外活動後は入浴し、マダニに刺されていないか確認すること、マダニの咬着が認められた場合は、無理に自分で引っ張ったりせずに、ただちに皮膚科などでマダニの頭部が残らないように除去してもらうことも重要です。

マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は内科などで診察を受けてください。

マダニが媒介する感染症の予防について

平成30年6月1日(金) 14時30分

北海道保健福祉部健康安全局地域保健課
電話：011-231-4111 (内線25-506)

道内5例目となるダニ媒介脳炎患者の発生が確認されたことから、マダニが媒介する感染症について改めて道民の皆様にご注意喚起を図ることとしましたのでお知らせします。

マダニは、森林や草地など屋外に生息する比較的大型のダニ(食品等に発生する「コナダニ」や、衣類や寝具に発生する「ヒョウヒダニ」など家庭内に生息するダニとは全く種類が異なる)で、ダニ媒介感染症(ライム病・回帰熱・日本紅斑熱・ダニ媒介脳炎・重症熱性血小板減少症候群(SFTS)など)の原因となる病原体を保有していることがあり、ヒトはマダニに咬まれることでこれらの病気に感染することがあります。

今の時季、山菜採りや登山・キャンプなどで自然とふれあう機会が増えることから、マダニに咬まれ、ダニ媒介感染症に感染しないよう、十分な予防対策に努めてください。

記

1 道内のダニ媒介感染症について

北海道内で過去に患者が確認されている主なダニ媒介感染症のは下表のとおりです。

病名	潜伏期間	主な症状
ダニ媒介脳炎	7～14日程度	発熱、筋肉痛、麻痺、意識障害、痙攣、髄膜炎、脳炎等
ライム病	12～15日程度	発熱(微熱であることが多い)、倦怠感、慢性遊走性紅斑、希に心筋炎・髄膜炎
回帰熱	7～10日程度	発熱(39℃以上)、筋肉痛、関節痛、倦怠感等

これらは、インフルエンザのように容易に人から人に感染して広がるものではなく、水や空気などを介して伝染することはありません。

2 予防方法

マダニに咬まれないようにすることが重要です。マダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに咬まれる危険性が高まります。

長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴(サンダル等は避ける)、帽子、手袋、首にタオルを巻くなど、肌の露出を少なくすることが大切です。

屋外活動後は、すぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。

3 マダニに咬まれたら

マダニは体部をつまんで引っ張ると口器がちぎれて皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまったりする恐れがありますので、医療機関(皮膚科等)で処置(マダニの除去、洗浄など)をしてもらってください。

また、マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱、食欲低下、おう吐、下痢等の症状が認められた場合は医療機関(内科等)で診察を受けてください。受診の際は、いつ、どこを咬まれたか、山などに行ったかを医師に伝えてください。

【ダニ媒介感染症の発生状況】

○ダニ媒介脳炎の届出件数 (単位：人)

	H5	H25	H26	H27	H28	H29	H30
北海道	1	0	0	0	1	2	0
全国	1	0	0	0	1	2	0

○ライム病の届出件数 (単位：人)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
北海道	5	6	9	3	5	9	0
全国	12	20	17	9	8	19	0

○回帰熱の届出件数 (単位：人)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
北海道	0	1	1	4	5	5	0
全国	1	1	1	4	7	8	0

※H30は、第20週までの状況(今回の発生分は含まない。)

【ダニ媒介脳炎のこれまでの発生事例】

区 分	平成5年	平成28年	平成29年7月	平成29年8月	今般事例
発生届医療機関の所在地保健所	渡島保健所	札幌市保健所	市立函館保健所	札幌市保健所	旭川市保健所
性別・年齢	女性・30歳代	男性・40歳代	男性・70歳代	男性・70歳代	女性・40歳代
感染したと推定される地域	道南圏域	不明	道南圏域	道央圏域	道北圏域
その他	—	死亡	死亡	—	—

※ダニ媒介感染症については、北海道保健福祉部健康安全局地域保健課ホームページ(<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kth/kak/ticks.htm>)においても注意喚起を図っています。

*道内の感染症発生状況については、北海道立衛生研究所北海道感染症情報センターホームページ(<http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/index.html>)にて公開しています。